



# WingArc1st Data Empowerment Report 2019

**WingArc 1ST**

The Data Empowerment Company

## WingArc1st Data Empowerment Reportとは？

少子高齢化、人口減少が進む日本において、労働生産性の向上は喫緊の課題とされています。しかしながら、公益財団法人日本生産性本部が公開している「労働生産性の国際比較 2018年版」によると、2017年の日本における時間当たりの労働生産性は、OECD加盟36カ国の中で20位であり、主要先進7カ国の中では最下位となっています。

労働力人口の減少、グローバルでの市場競争激化などの逆風の中、いかに限られた人的リソースで最大限の労働生産性を実現するかが、今後の日本企業の明暗を分けると言っても過言ではないでしょう。「人手が足りないから増やす」「皆で努力して業績を伸ばす」といった、従来の方法はもはや通用しません。

そこで、労働生産性を向上させる手段として、テクノロジーとデータの徹底活用が期待されています。

ウイングアーク1stでは、企業・ビジネスパーソンの課題に対し、社内外の情報を効率よく収集・管理・分析し、成長へのエネルギーに変えていく取り組み「データエンパワーメント / Data Empowerment」を提唱しています。

テクノロジーとデータの活用による生産性向上があらためて必要とされていることを受けて、ウイングアーク1stは**1,000人の日本のビジネスパーソンを対象に、IT活用状況と労働生産性に関する意識調査を実施**し、その結果をもとに「**WingArc1st Data Empowerment Report 2019**」としてIT活用と労働生産性の関係性についてのレポートを作成しました。

### ウイングアーク1st株式会社について

ウイングアーク1stは、帳票基盤ソリューション「**SVF**」、データ活用ソリューション「**SPA**」、BI(ビジネスインテリジェンス)「**Dr.Sum**」「**MotionBoard**」のソフトウェアとクラウドサービスを提供し、企業の価値を高める情報活用の実現をご提案しています。

商号 : ウイングアーク1st株式会社  
所在地 : 〒106-6235 東京都港区六本木三丁目2番1号 六本木グランドタワー  
創業 : 2004年3月  
代表者 : 代表取締役社長 田中 潤  
資本金 : 2億円  
事業内容: 帳票事業、BI事業、データ活用ソリューション等の開発・販売  
URL : <http://www.wingarc.com>

### 本レポートに関するお問い合わせ先

ウイングアーク1st株式会社  
〒106-6235 東京都港区六本木三丁目2番1号 六本木グランドタワー  
TEL:03-5962-7300 E-mail:[pr@wingarc.com](mailto:pr@wingarc.com)

#### 【調査概要】

- 調査手法:インターネット調査
- 実施期間:2018年8月31日～9月3日
- 調査対象者:全国の一般オフィスワーカー(男女20～69歳)
- サンプル構成:1,000サンプル(性別/年代ごとの均等割り)
- ※実査委託先:楽天インサイト株式会社

## INDEX

### P01 ABOUT

WingArc1st Data Empowerment Reportとは？

### P02 INDEX

### P03 SUMMARY

システム利用の有無と労働生産性の高低には高い相関性がある

### P04 FACT-01

システムの利用の有無によって労働生産性に対する自己評価に約2.6倍の差が生まれる

### P05 FACT-02

労働生産性に関する自己評価が高いシステムのトップ3はBI/ERP/名刺保存・整理の利用者

### P06 FACT-03

システム化や情報化によって1日約27分、1ヵ月約9時間の短縮が期待される

### P07 FACT-04

AI・自動化システムの利用度は二極化、ただ、活用・実益という面では、発展途上

### P08 FACT-05

労働生産性向上の最大の障害は業務の標準化・単純化・可視化・共有化ができていないこと

### P09 FACT-06

時間がかかっている業務トップ3は、「社内資料の情報管理」「社内資料の情報検索」「ワークフロー」

### P10 結論と提言

「社内資料の情報管理」「社内資料の情報検索」「ワークフロー」などの業務を  
BI/ERP/名刺保存・整理などのシステムを活用して効率化することが、労働生産性向上の鍵

## SUMMARY

# システム利用の有無と 労働生産性の高低には高い相関性がある

システムを使っている人と使っていない人の労働生産性には  
約2.6倍の差が生まれるという調査結果に

## 1 システムを使っている人は 「自分は労働生産性が高い」と考えている

「自分は労働生産性が高い」と考えている人を、システムを利用しているかどうかで比較した場合、「利用している」人の割合は「利用していない」人の約2.6倍も高い。

## 2 社員のモチベーションと達成感を高める上で、 BIの利用は極めて有効

「自分は労働生産性が高い」と考えている人を、「何らかのシステムを利用しているかどうか」で比較すると、いずれも「利用している」人の割合が高くなった。  
最も大きな差が見られたのは「BI(ビジネスインテリジェンス)」の項目で、「自分は労働生産性が高い」と考えている人の70.0%は「BIを利用している」と答え、利用していない人は35.6%にとどまった。

## 3 システムの利用が生産性を高め、 労働時間の短縮につながることを実感

システムを利用することで労働時間を短縮できると多くの人が感じている。回答者全体の平均では、システムの利用によって、労働時間を現状よりも1日あたり約27分短縮できると感じていることが分かった。

## 4 AI・自動化システムがもたらす効率化に高い期待が集まる 一方で実益を生み出すモデル探しが課題に

AI・自動化システム、その周辺技術が急速に進歩しており、それらと連携することで画期的な業務効率化モデルの実現が期待されている。しかし一方で、AIや自動化の技術は発展途上であり、これらの機能をいかに実益に結び付けていくかが、重要な課題となっていることが調査結果に表れた。

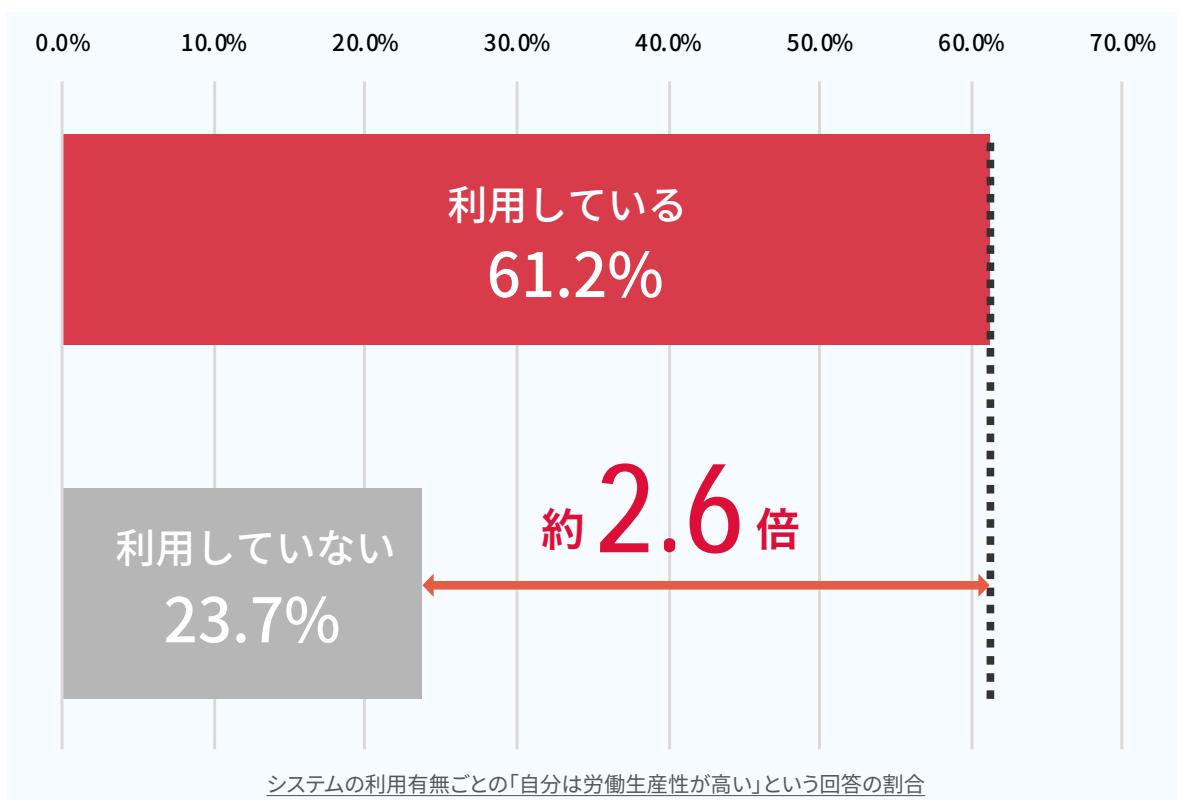
## 5 人に頼った仕事や人手の作業は、 デジタライゼーションで一掃

労働生産性の向上を妨げている要因として「業務を標準化・単純化できていない」「業務を可視化・共有できていない」が上位に挙がった。続いて紙中心の文化、手作業が多いといったオペレーションの非効率さによる要因が目立つ。また、時間がかかる業務としては、「社内資料の情報管理」「社内資料の情報検索」が挙げられた。これらを総合すると、業務の効率化と業務の標準化・単純化・可視化・共有化、デジタル化、自動化は密接な関係にあることが推測できる。

**FACT-01**

システムの利用の有無によって  
労働生産性に対する自己評価に  
**約2.6倍の差が生まれる**

普段からシステムを使っている職場では、「自分は労働生産性が高い」と考えている人の比率が、システムを使っていない職場に比べて約2.6倍も多い

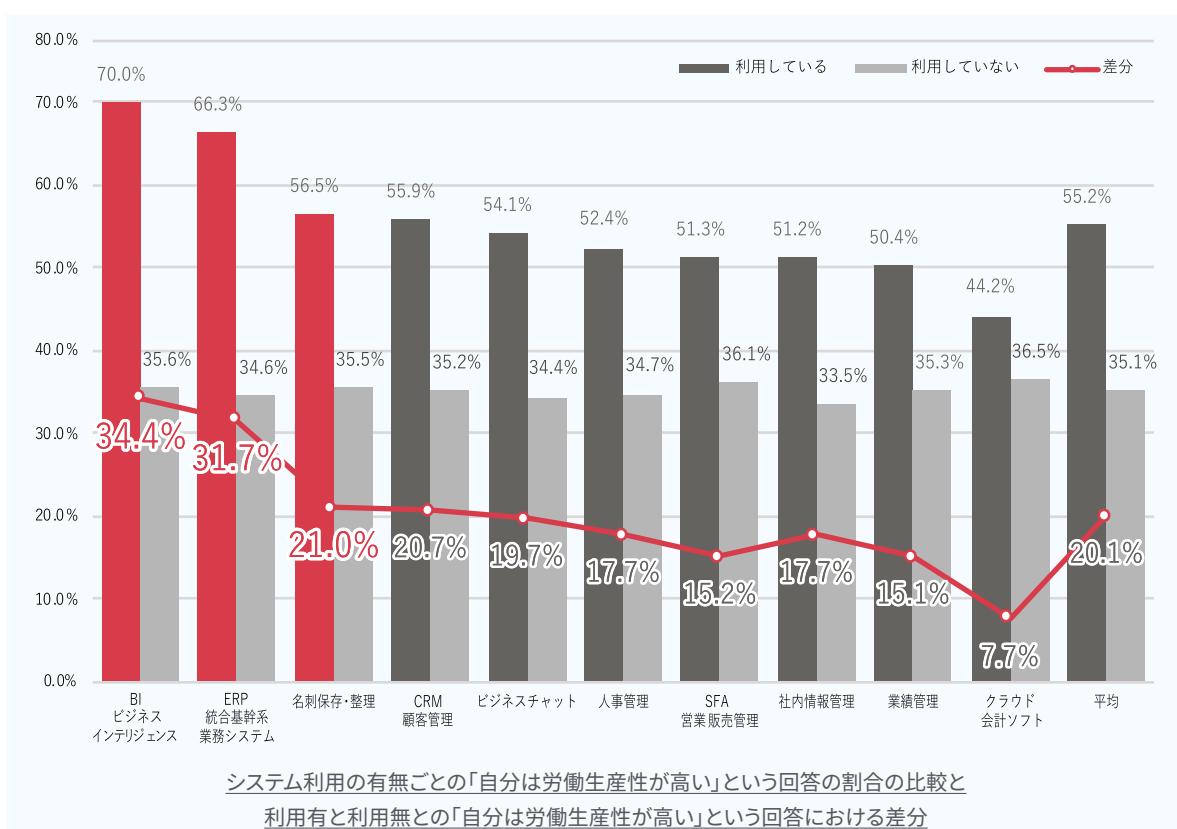
**NOTES**

- 今回の調査結果で非常に興味深いのは、職場に導入された**システムが充実しているほど、「自分は労働生産性が高い」と感じる人が多かった点です。**
- 「自分は労働生産性が高いと思うか?」との質問に対し、**普段から職場でシステムを利用している人の61.2%がそう思う**と答えたのに対し、利用していない人では23.7%にとどまりました。
- この結果から、システム導入済みの職場では、**労働生産性に関する自己評価が高い人**が、未導入に比べて**約2.6倍も多くいる**ということが分かりました。  
※「自分は労働生産性が高い」と回答した人の割合は、回答者全体では37.3%。

**FACT-02**

# 労働生産性に関する自己評価が高いシステムのトップ3は BI/ERP/名刺保存・整理の利用者 ビジネスに直結したシステムが社員に自信と達成感を与える

BIやERPなど業務の原動力となるシステムほど、  
利用者の労働生産性に対する自己評価が高い

**NOTES**

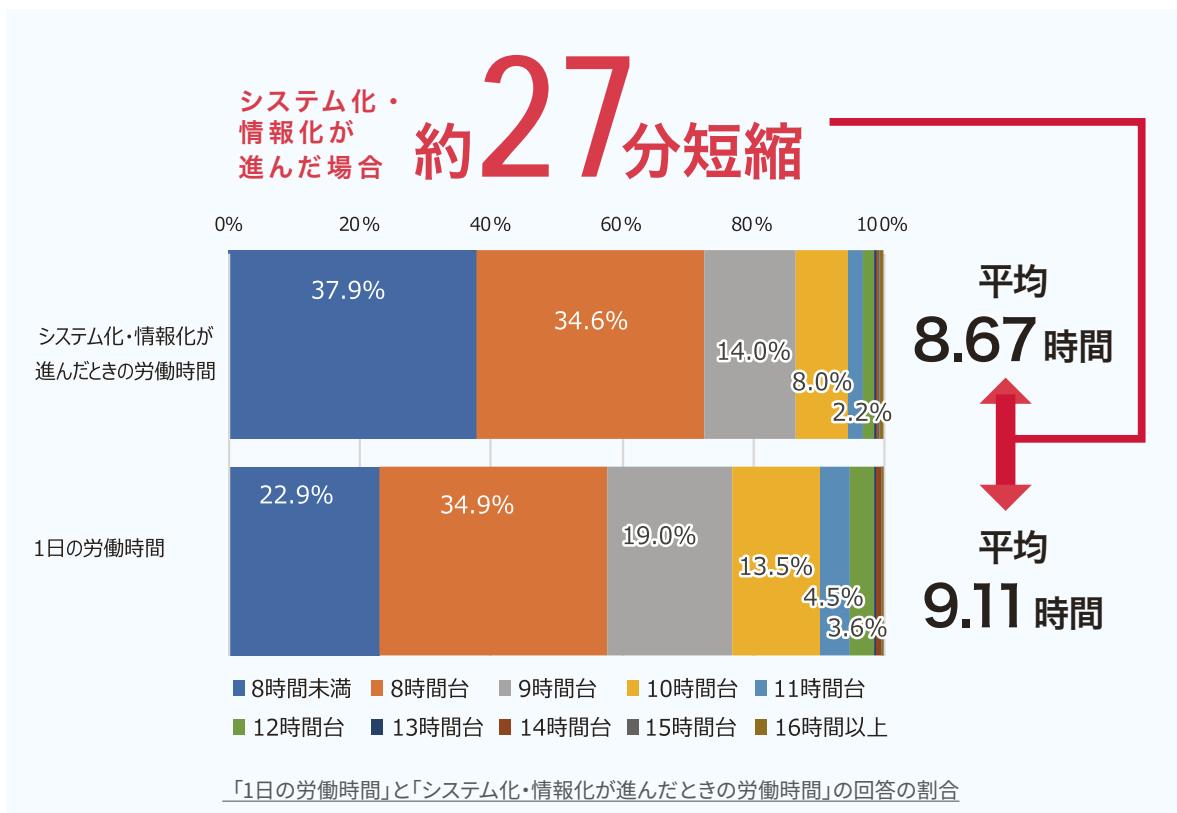
- **FACT-01** で見たように、システムを利用している職場とそうでない職場では、「自分は労働生産性が高い」と感じる人の割合に大きな差があります。
- これをシステムごとに掘り下げて比較した結果、この差が最も大きかったのは「BI(ビジネスインテリジェンス)」続いて「ERP(統合基幹系業務システム)」「名刺保存・整理」でした。割合の差分を見ると、BIでは約2.0倍、ERPでは約1.9倍と大きな開きがあります。
- **BI**や**ERP**は業務に関するあらゆるデータを収集・分析し、経営判断や戦略策定、指標の作成などに密接に関わるシステムです。

## FACT-03

# システム化や情報化によって 1日約27分、 1ヶ月で約9時間※の短縮が期待される

※1ヶ月=20日間就業した場合として換算

システム化・情報化が進むと、1日の労働時間が9時間未満の職場が14.7%増加する  
と想定され、働き方改革が進むと考えている人が多い



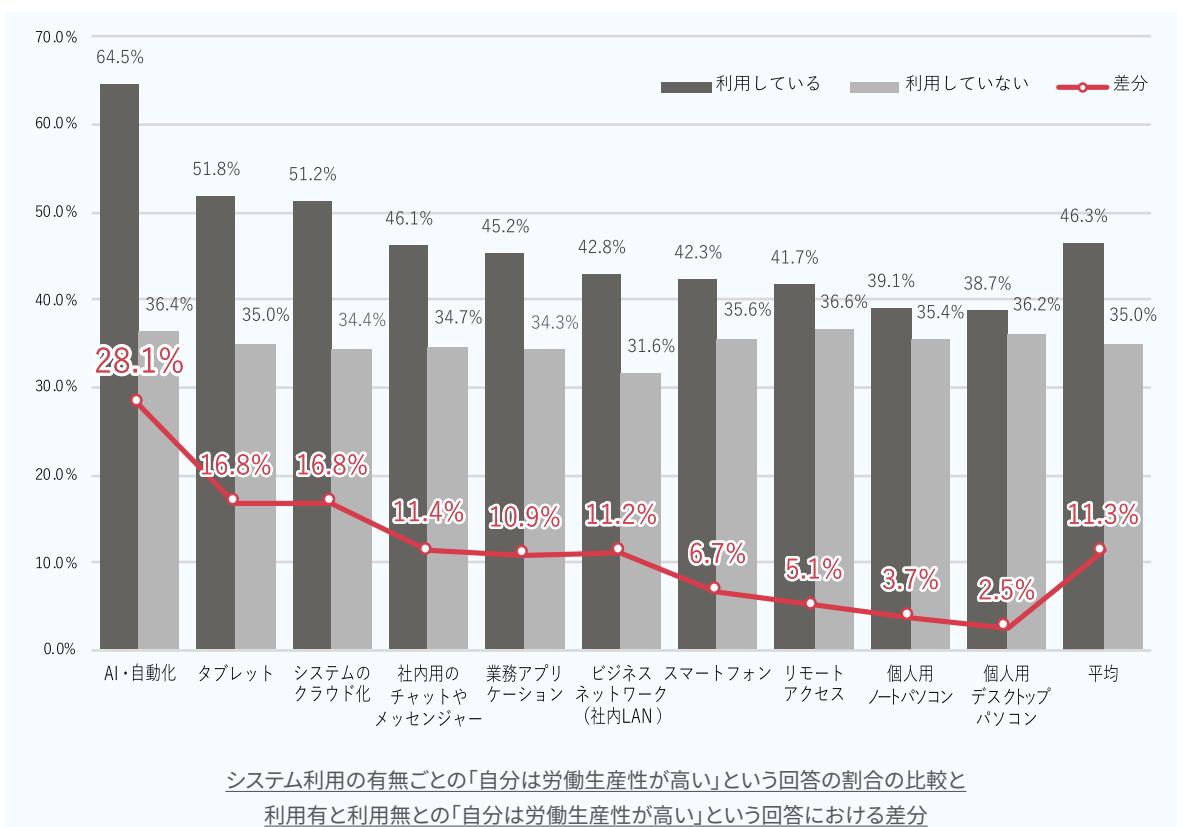
## NOTES

- 労働生産性の向上でも、働き方改革の推進でも、システムを活用した効率化=労働時間短縮は重要な課題の一つです。
- そこで、「1日の労働時間」と「システム化・情報化が進んだときの労働時間」を比較した結果、全体的にシステム化・情報化が進むと労働時間が短縮する傾向が見られました。
- 1日の労働時間が9時間未満に収まる人の割合を、システム化・情報化がなされていない職場では57.8%、システム化・情報化が進んだ職場で72.5%となりました。
- それぞれの労働時間を平均すると、9.11時間と8.67時間になります。  
**システム化・情報化が進んだ職場では、1日当たり約27分の時間短縮が実現することになります。**  
※「システム化・情報化が進んだときの労働時間」は、回答者が想定した時間です。

## FACT-04

# AI・自動化システムの利用度は二極化、 ただ、活用・実益という面では発展途上

AI・自動化システムの優れた業務効率化における能力が、  
高い評価につながっていると推測される



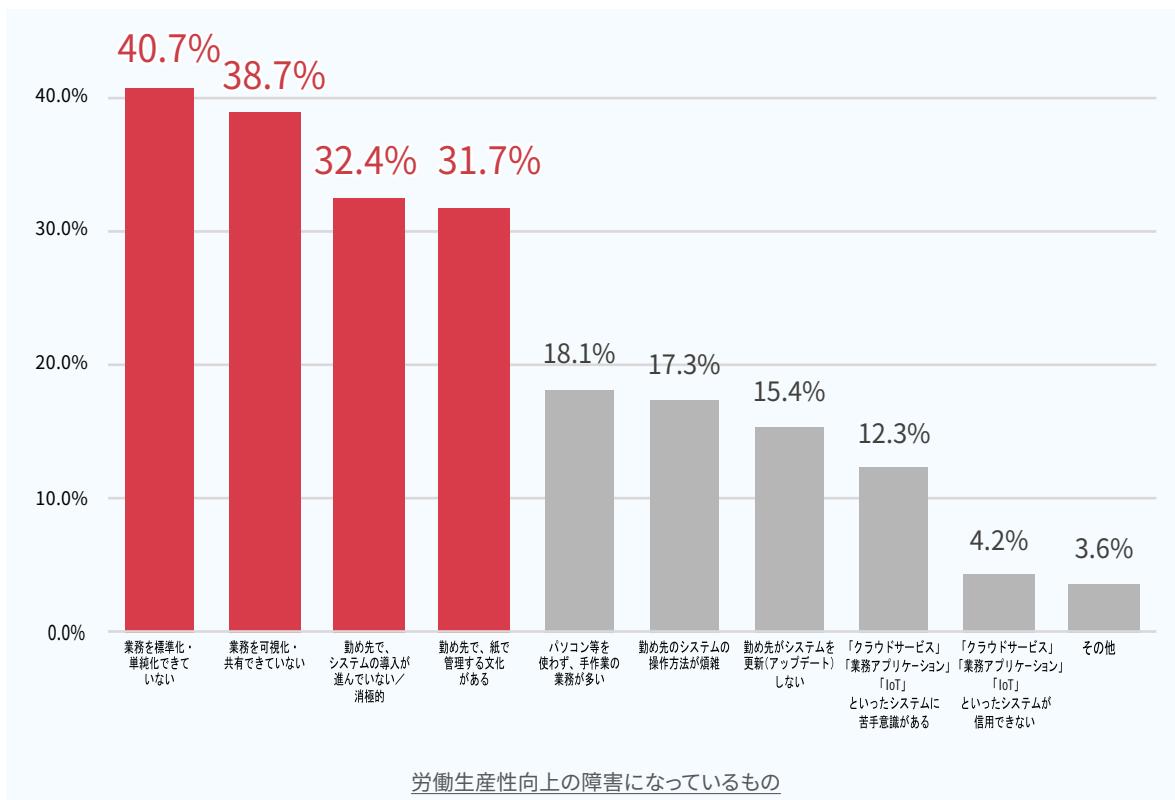
## NOTES

- FACT-01 で見たように、システムを利用している職場とそうでない職場では、「自分は労働生産性が高い」と感じる人の割合に大きな差があります。
- これを利用しているシステムの違いで比較した結果、  
**差が最も大きかったのは「AI/自動化」で、差分は28.1%でした。**
- 現在AIや自動化の分野は画像認識やRPAなどの周辺技術が急速に進歩しており、それらと連携して従来は考えられなかったような業務処理の効率化を実現しています。こうした実績が、すでにシステムを利用している人の高い評価につながっていると考えられます。
- AIや自動化は発展途上の技術分野であり、**それらがもたらす恩恵をいかに実益に結び付けていくかが、重要な課題**となっています。

## FACT-05

# 労働生産性向上の最大の障害は 業務の標準化・単純化・ 可視化・共有化ができていないこと

業務の標準化や見える化、そして共有基盤構築の遅れが生産性向上の障害となる



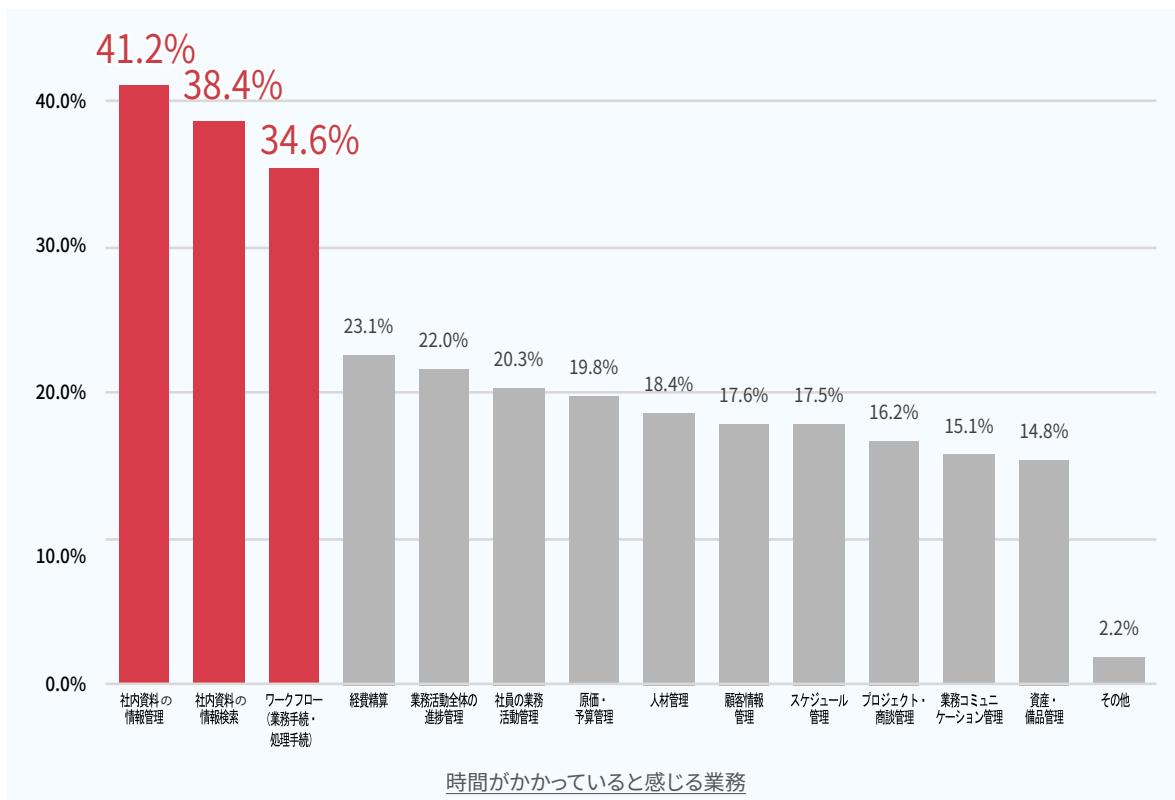
## NOTES

- ビジネスパーソンに労働生産性の向上を実現する上で、何らかの障害があるかどうかを尋ねたところ、**全体の61.2%**が「労働生産性向上にあたって障害がある」と回答しました。
- それらの障害を回答数の多かったものから順に挙げると、「業務を標準化・単純化できていない」(40.7%)、「業務を可視化・共有できていない」(38.7%)、「勤め先で、システムの導入が進んでいない／消極的」(32.4%)、「勤め先で、紙で管理する文化がある」(31.7%)となります。

**FACT-06**

# 時間がかかっている業務トップ3は、 社内資料の情報管理 社内資料の情報検索 ワークフロー(業務手続・処理手続)

資料や情報の管理・活用を効率化するには  
「業務の標準化・単純化・可視化・共有化」が必須

**NOTES**

- 現在「時間がかかっていると感じる業務」があるかどうか尋ねたところ、全体の63.6%が「ある」と回答しました。
- 回答者の内、多かったものから順に挙げると、「社内資料の情報管理」(41.2%)、「社内資料の情報検索」(38.4%)、「ワークフロー(業務手続・処理手続)」(34.6%)となりました。
- 上位2つの「社内資料の情報管理」と「社内資料の情報検索」に時間がかかる原因は、  
資料や情報が管理・検索しやすいように、あらかじめ標準化・可視化・共有化されていないためと推測されます。
- FACT-05 の「労働生産性向上の障害になっているもの」の上位2つ、「業務を標準化・単純化できていない」「業務を可視化・共有できていない」と表裏一体の関係にあると考えられます。
- 労働生産性向上の実現には、「業務の標準化・単純化・可視化・共有化」が必須の課題であると言えるでしょう。

## 結論と提言

# 「社内資料の情報管理」「社内資料の情報検索」「ワークフロー」などの業務を BI/ERP/名刺保存・整理などの システムを活用して効率化することが、 労働生産性向上の鍵

今回の調査では、**システム活用がビジネスパーソンの労働生産性向上に、重要な役割を果たす**ことが明らかになりました。システムを効果的に活用することで、コスト削減・業務効率化を促進することが可能となり、**結果として労働時間の短縮、労働生産性の向上につながると推測できます。**具体的なシステムとして、利用者の労働生産性に対する自己評価が高いシステムのトップ3に**BI/ERP/名刺保存・整理**が挙がっています。また、システム化の促進に加えて、時間がかかる業務とされる**社内業務の可視化・共有化、社内情報整理を推進することによって、さらに労働生産性が向上する可能性が高い**ことも判明しました。時間がかかる業務とされる**社内資料や情報の管理・検索用システムの導入を手始めに、さまざまな業務のデジタライゼーションを図ることによって、日本企業の労働生産性を高めることができることを示唆する調査結果となりました。**個人に依存した業務や紙文書主体のワークフローなどが効率化を妨げており、それを解決する鍵が「業務の可視化と標準化」であること、また、**BI/ERP/名刺保存・整理**などのシステムを活用して、アナログからデジタルへ業務の転換をすることで業務の自動化・スピード化を実現できることが分かりました。加えてデータ分析の結果を経営戦略に生かす姿勢が、労働生産性とモチベーションの向上につながることが明らかになりました。

Data Empowermentをすべての働くひとへ

**WingArc 1ST**

The Data Empowerment Company

Data Empowermentは、働くひとのパフォーマンスを最大化するもの」と我々は考えています。

今回の調査結果も示すように、テクノロジーの活用がビジネスパーソンの労働生産性向上に、重要な役割を果たし、データを活用することやデータに基づいた迅速な意思決定・アクションが、時間を節約し業務を効率化して、クリエイティビティの求められる業務にフォーカスするための力になるからです。

あなたも「Data Empowerment」を体験してみませんか？

Data Empowermentについてさらに詳しく

WingArc データエンパワーメント

検索



The Data Empowerment Company

ウイングアーク1st株式会社  
[www.wingarc.com](http://www.wingarc.com)

[本社]〒106-6235 東京都港区六本木3-2-1 六本木グランドタワー

TEL:03-5962-7300(代)

[大阪]〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビル 11F

TEL:06-6225-7481

[名古屋]〒450-6324 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1 JPタワー名古屋 24F

TEL:052-562-5300

[福岡]〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1-15-20 NMF博多駅前ビル 2F

TEL:092-292-1092

[仙台]〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央2-9-27 プライムスクエア広瀬通 13F

TEL:022-217-8081

[札幌]〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西3-32 8・3スクエア北ビル8F

TEL:011-708-8123

[新潟]〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1-26-9 大和地所新潟笹口ビル 4F

TEL:025-241-3108

[広島]〒730-0022 広島県広島市中区銀山町3-1 ひろしまハイビル21 16F

TEL:082-535-5291

○掲載内容は、2019年1月現在のものです。○記載の会社名・製品名等は、弊社および各社の商標または登録商標です。

